

2021年5月実績概要(メモ)

(2021. 6. 17)

エチレンをはじめポリオレフィン、合成ゴム等の生産は、低迷した前年に対して大幅な増産が見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 528,700トン

前月比 ▲ 3.0% (▲16,100トン)

前年同月比 +20.6% (+90,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	-
定修要因等	▲ 4.9 %	+ 14.7 %
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 1.4 %	+ 5.9 %
生産増減率	▲ 3.0 %	+ 20.6 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.1%* → 当月93.8% ← 前年同月89.4%

定修プラント：前月なし → 当月1社1プラント ← 前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数の増加や定修規模差等から、LDPE、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BRなどの7品目がプラス。HDPE、PS、塩ビモノマー、AN、ベンゼンなどの10品目は主に定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因と定修規模差からLDPE、HDPE、PP、MMAモノマー、EO、EG、SBR、BR、トルエンなどの13品目がプラス。PS、SM、キシレンなどの4品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LDPE、HDPE、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、日数増に加えて、LDPEは主に稼働率要因からプラス。HDPE、PP、PSは定修規模の増加や稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因を主因として、LDPE、HDPE、PPでプラス。PSは定修規模差もありマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、関連産業の稼働日数差や生産動向も一様でない状況のもと、消費動向も弱含みの傾向が見られたこともあり、汎用4樹脂の出荷も前月に続いてのマイナスとなった。

前年比は、前年が、輸送機械を中心に国内の工業生産全般で底に陥った時期であったとともに消費動向も極めて厳しい局面にあり、汎用樹脂の出荷水準も低めであった。

当年は、これに対して、LDPE、HDPE、PP、PSともに大きく増加した。出荷分野別ではLDPEはフィルムのほか各用途で増加が見られたほか、HDPEは射出成形分野、中空成形分野、PPでは射出成形分野や押出成形分野、PSは包装用を中心にそれぞれで出荷が増加した。

ハ) 輸出

前月比では、前月に続いてLDPE、HDPE、PPでマイナス、増加が続いてきたPSも生産の減少が影響し、当月はマイナスとなった。

前年比では、LDPE、HDPEで増加傾向が続いてきたが、前月から一服感も出ており、PPと合わせて3樹脂でマイナス。PSのみは依然として増加が続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、LDPE、PPで増加。HDPE、PSは微減となった。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDPE、HDPE、PPで上昇、PSは低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPEやや多め、PSはタイト寄り、PPは適正レベルに近づきつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		4月末	5月末
LDPE	+25,000	2.9	3.2
HDPE	▲ 800	2.9	3.3
P P	+31,500	2.3	2.6
P S	▲ 1,200	1.5	1.4

以上

前月からの修正を*で付記